

当協会友田副会長、在ロンドン日本学校を訪問  
～ジュニア・ SHIPPING・ジャーナリスト賞受賞を称える～

当協会友田常勤副会長は2月25日に在ロンドン日本人学校を訪問し、海事諸団体作成の海事啓発資料の贈呈を行うとともに、日本海事広報協会主催の壁新聞コンテスト“2022年度ジュニア・SHIPPING・ジャーナリスト賞”にて団体優秀賞を受賞した中学1年生のクラス、および佳作を受賞した年永春花さんに夫々記念品を贈呈しました。

友田副会長は昨年6月に同クラスで中学生向けのキャリア教育として「イギリスと日本、そして世界を支える海運とその仕事」をテーマに講話を行い、世界の人々の暮らしと経済をささえる船や船員の仕事、安全運航の大切さ、国際海運における脱炭素の取り組みなどを紹介しておりました。講話を通じて生徒が海運の役割に興味をもち、当協会が代表して寄贈した海事諸団体作成の資料※（以下「海事教材」）も活用し応募に至ったものです。



今回の受賞につながったことを受け、同校の森下教頭先生からは「生徒たちの中で海運への関心が確実に高まっている。多様な人種・文化が共生しているロンドンで暮らしている生徒であるからこそ世界の架け橋にとの講話のメッセージは、船上で働く人々の姿とも重なった。寄贈いただいた資料の利用も活発」と評価、友田副会長からは「イギリスと同様、四囲環海の日本では、輸出入の99.6%の輸送を海運が担っている。日々の生活で当たり前

できていることが世界を結ぶ海運やその安全運航を支援する人達によって支えられている事に気づいていただき大変嬉しい。皆さんには海・船のファンになっていただき、将来海運の仲間が出てくることを期待する」とエールを送りました。なお、同校は図書室に当協会が寄贈した海事教材を紹介する船のコーナーを設置し、日本と同じ島国の英国で生活する生徒たちが海事産業を身近に感じてもらえるような工夫がなされています。



※ 海事諸団体（当協会、日本内航海運組合総連合会、日本造船工業会、日本中小型造船工業会、海技振興センター、海技教育財団、J-CREW プロジェクト（国際船員労務協会および全日本海員組合）、日本海事広報協会）の作成資料を取りまとめ、国内外の教育機関に試験的に送付。2月27日には在カイロ日本人学校へ友田副会長から寄贈した。